

松本市基幹博物館基本設計ワークショップ第4回開催報告

■市民ワークショップ開催概要

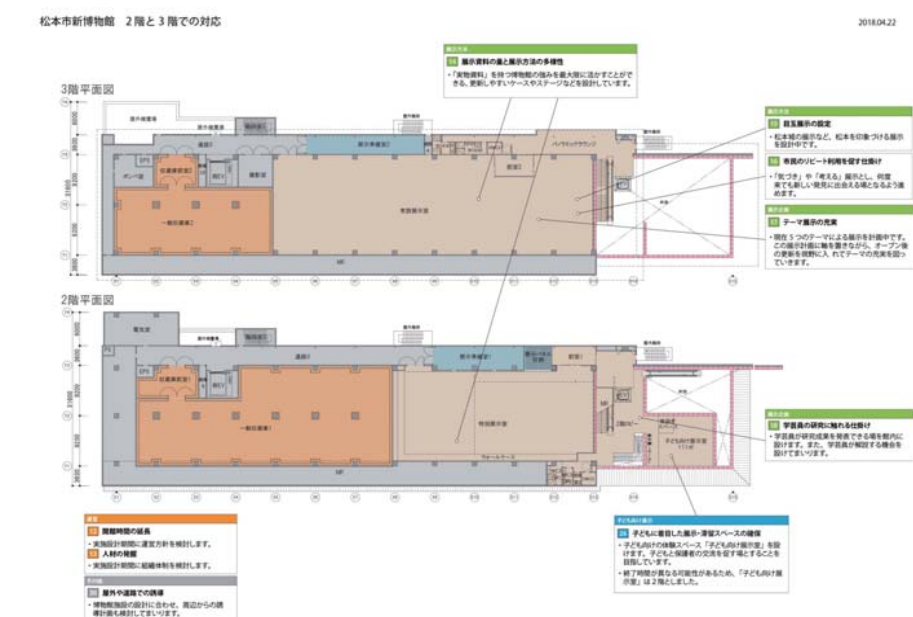
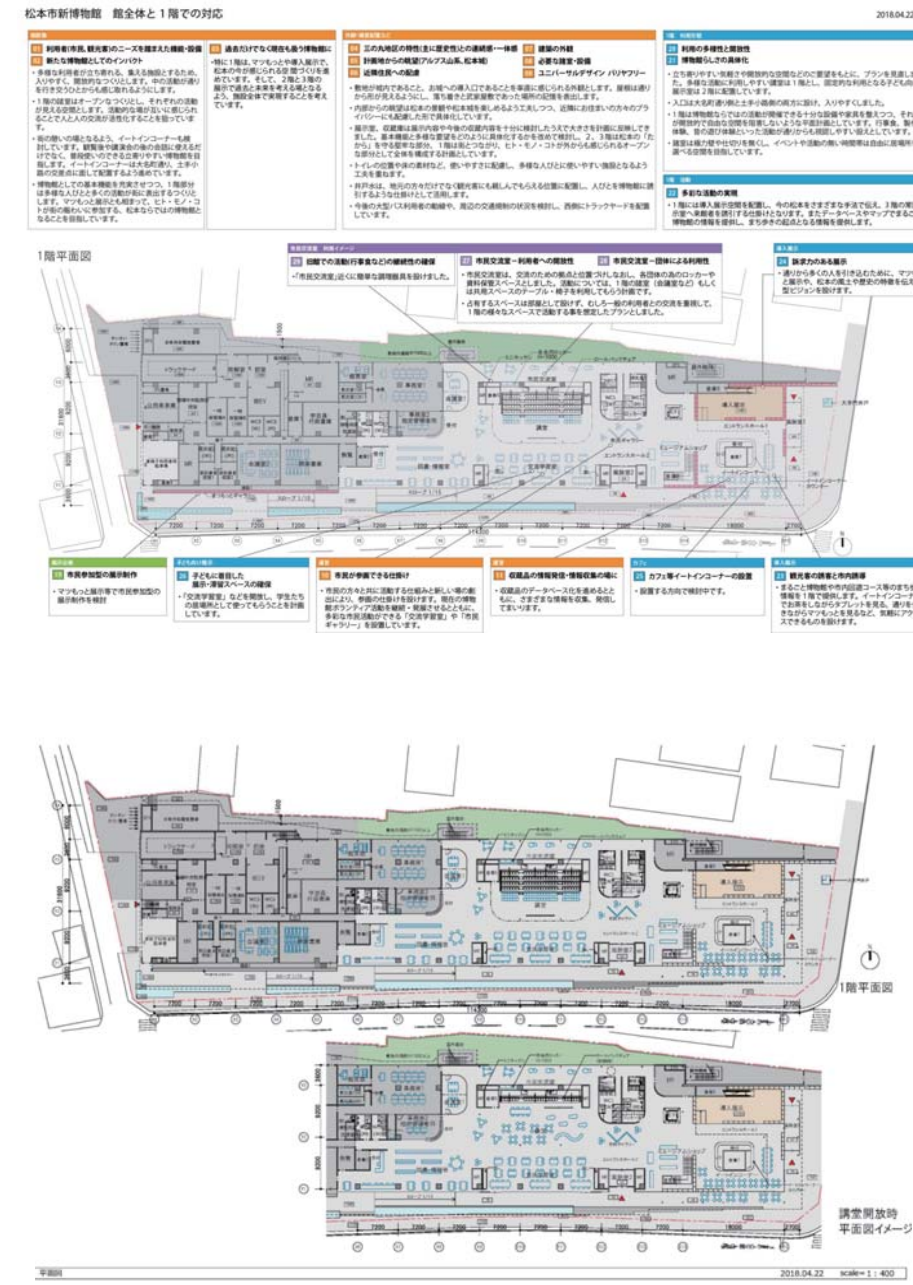
開催日時	目的	参加者	参加人数
第1回 2017年10月15日 13:30~15:30	<ul style="list-style-type: none"> ●新設博物館プロポーザル案説明の機会にするとともに、設計プロセスへの市民参画を創出する。 ●ワークショップを通じて市民の本音を収集し、ユーザーのニーズを確認する。それらを今後の設計に出来る限り反映する。 	市報による公募に応募した市民	23名
第2回 2017年11月17日 18:00~20:00	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい博物館への興味関心を高め、博物館運営への市民の積極的参加を促す。 ●意見収集には「ワールドカフェ」の手法を用いることで、市民同士の“対話”を創出する。 	同上	24名
第3回 2018年1月31日 13:30~16:30	<ul style="list-style-type: none"> ●すでに博物館での活動実績があり、博物館とつながりのある市民の活動をふりかえることで、それらを新しい博物館に反映し、市民の博物館運営への積極的な参加を促す。 	友の会 市民学芸員 工ムの会	20名
第4回 2018年4月22日 13:30~16:00	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでのワークショップで市民の方々から伺った意見をふまえて、最新の設計案を解説し、博物館の具体的なイメージを共有する。 ●新しい博物館でやりたいことを考え、共有する。 	公募に応募した市民	23名

■第4回市民ワークショップ開催概要

第1回から第3回までのワークショップで、新しい博物館に対する市民の意見を聴取してきた。第4回では、第1部でそれらの意見をご報告するとともに、市民の意見を活かしてまとめた基本設計について説明した。

第2部では、新しい博物館の設計をふまえて、市民ひとりひとりができることを考え、共有することで、今後の活動につなげるとともに、新しい博物館への参画意識を醸成するワークショップを実施した。

提示資料



松本市新博物館の市民ワークショップでいただいた意見と対応

2018.04.22

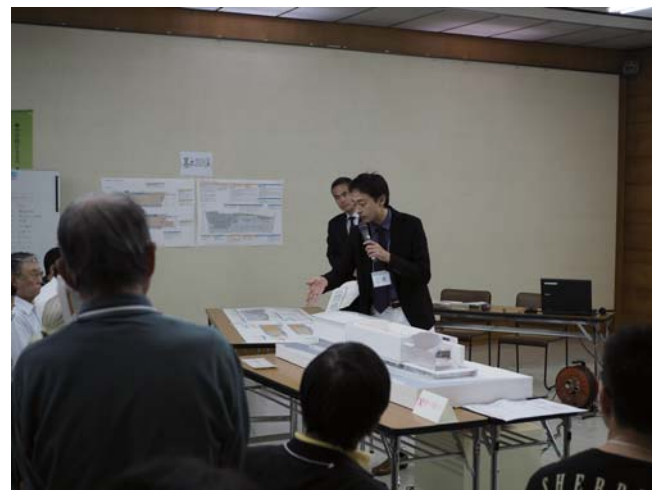
場所	分類	第1回(2017.10.15) 参加者:一般市民	第2回(2017.11.17) 参加者:一般市民	第3回(2018.1.31) 参加者:博物館ボランティア	意見まとめ	対応			
A 建物全体	施設像	<ul style="list-style-type: none"> 博物館は市民がほとんど行かない、だからこそ新博物館は、市民に集ってもらえる場になることが大事。 休憩できるスペースがほしい。 「市民」「観光客」をつなぐ緩衝の場である。 市民の憩いの場になるとよい、喫茶スペースなどちょっとお茶をのんで話せるような場所があると良い。 お年寄りと子供が話せる場所になるとすてきだと思う。 ワイワイさわわがよい博物館になったらいい、その街で暮らしている人との交流が楽しい、それを楽しみたい、モノと人、人と人の交流がたくさん生まれる場、人は、市民や観光客、学芸員、あらゆる世代、など。 ワクワク感、おしゃれも必要ではない(展示がクリエイティブなもの)。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光面だけでなく、住んでいる人の視点がほしい(仕事や育児に使える場所)。 お年寄りから情報を直接聞けるような仕組みがほしい。 ワクワクして何回も足を運びたい場所。 市民に愛される博物館(こころのふるさと松本)。 世代間コミュニケーションができる場所。 非博物館要素(カフェ)を混在させて、博物館へ誘導する。 観光客と地元人が交流できる場。 地元で愛される地元のための博物館。 人を繋げる、人づくりを意識した場に。 デートができる空間にしよう。デートができる気軽さ、オシャレさ、地元の人が愛している施設は観光客から見ても魅力的に見えるはず。 	<ul style="list-style-type: none"> 大勢の人が集う博物館。 居場所や帰る場所が必要な時代において、「おうちの博物館」といえるような身近な存在になってほしい。 会話を生み出す空間。 地元の人が訪れやすい場所にしてほしい。 講演会終了後意見交換やおしゃべりができるコーヒージョップが欲しい。集まってくる方たちは智の宝庫。すぐに帰ってしまうのはあまりに惜しい。 喫茶室(カフェ)は新博物館に必要(博物館利用者だけでなく、観光客にも立ち寄りてもらうために)。 施設のありようも大事だが人の対応、コミュニケーションがなにより大事だと思う。 	01	利用者(市民、観光客)のニーズを踏まえた機能・設備	<ul style="list-style-type: none"> 多様な利用者が立ち寄れる、集える施設とするため、入りやすく、開放的なつくりとします。中の活動が通りを行き交うひとからも感じ取れるようにします。 1階の諸室はオープンなつくりとし、それぞれの活動が見える空間とします。活動的な場が互いに感じられることで人と人の交流が活性化することを狙っています。 街の憩いの場となるよう、イートインコーナーも検討しています。観覧後や講演会の後の会話に使えるだけでなく、普段使いのできる立寄りやすい博物館を目指します。イートインコーナーは大名町通り、土手小路の交差点に面して配置するよう進めています。 博物館としての基本機能を充実させつつ、1階部分は多様な人びとと多くの活動が街に表出するつくりとします。マツもつと展示とも相まって、ヒト・モノ・コトが街の賑わいに参加する、松本ならではの博物館となることを目指しています。 		
		<ul style="list-style-type: none"> 区画が直線的に感じられる。外壁を取って、屋外との活動連携ができれば。 建物の外と中の境界をあいまいにした方が人が入りやすいのではないかな。 中と外のつながり感がほしい(空間に遊びをつくり、外側にセッションスペースやデッキを設ける)。 	<ul style="list-style-type: none"> 通り道から気配を感じ、入りたくなるような空間。 内と外をあいまいにして、通り道のように中を通り抜ける場所に。→まち歩きを延長。 		02	新たな博物館としてのインパクト			
		<ul style="list-style-type: none"> 旅行代理店などの観光ルートに入るような場所になってほしい。 観光客に勧めたいような場所になるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 博物館に来たら「まつもつ」が分かる。 松本に来たらとりあえず行く場所になってほしい。 外から来た人々(県外や海外旅行者)が立ち寄り、松本の事を分かってもらえる場。 	<ul style="list-style-type: none"> 松本に移住してくるニューカマーが松本について学べる博物館。 旅行者に松本の良さを知ってもらえる博物館(松本は雪景色が良い)。 地域のことを知りたかったら、博物館に行けと言えよう施設に。 観光客を大切にしたい。 	03	過去だけでなく現在も扱う博物館に			
		<ul style="list-style-type: none"> 物産館のようにほしくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館的なものであれば必要ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 公民館との差別化が重要だと思う。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ココだからこそというポイントがある(城を超える)。 世界城ランキングベスト20に入る(?)お城観光目的の人達に、博物館に寄りたくなるようなここだけが見られない、松本を代表する何かがある。 建物はスッキリしていてよい。ただ、中が盛りだくさんすぎる。博物館として価値あるものを展示すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 松本には、松本はこれというものが少ないので、是非松本を代表する施設になってほしい。 新しいかたちの博物館を松本から全国へ発信したい。 子どもが行きたがる場所=大人にとっても魅力的な場所となること。ワクワク感やインパクトがほしい。 最先端の展示や体験を楽しめる施設。 イオンに勝てる様な賑わいの拠点に、名産品展示だけでなくマツもつと的な内容はイオンに任せては? 	<ul style="list-style-type: none"> 松本の顔となる地域の博物館であってほしい。 他の博物館にないものがほしい。 					
		<ul style="list-style-type: none"> 過去・現在・未来と、記憶から今に繋がる松本が簡単に分かることが大事。何を継承するかが問われる。新しい文化をつくる。→小さな小部屋にガイド映像など。松本の冬景色が一番美しいので、それらをいつまでも見てもらえるように。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去に関する知識だけでなく、未来を感じるミュージアムになってほしい。 						
		<ul style="list-style-type: none"> 松本は若者が集まる場がない。若者が集まる仕組みや仕掛けがほしい。 若い人は今を楽しみたい。だから、歴史とともに、今の松本を見せたい。 		<ul style="list-style-type: none"> マツもつと展示は、とても良いと思う。(博物館で今どんなことが行われているのかが分かる。また、棚の展示が良く見えるように、外構の植栽は低してほしい)。 					
		外観・諸室配置など		<ul style="list-style-type: none"> 外観は大事。城下や武家屋敷があったことを想起できる雰囲気してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 城内三の丸の品があるスタートとしての建物となることを期待する。三の丸は特別なエリア。シンボルである。 城下町に相応しい景観。 		04	三の丸地区の特性(主に歴史性)との連続感・一体感	<ul style="list-style-type: none"> 敷地が城内であること、お城への導入口であることを率直に感じられる外観とします。屋根は通りから形が見えるようにし、落ち着いた武家屋敷であった場所の記憶を表出します。
				<ul style="list-style-type: none"> 本町通りを歩いていると横の上で一瞬天守が見える場所があり、ずっといい風景とってきた。新しい施設が出来てもそれは残してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 松本城を一望できるテラスが欲しい。 松本の景観を活かして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 3階テラスから松本城が見えるようにしてほしい。(屋上テラスなどは無いのか)※新博物館隣の明倫堂ビルを撤去すると、松本城が見えるのではないかな。 アルプスが見える等、自然を活用してほしい。 	05	計画地からの眺望(アルプス山系、松本城)	<ul style="list-style-type: none"> 内部からの眺望は松本の景観や松本城を楽しめるよう工夫しつつ、近隣にお住まいの方々のプライバシーにも配慮した形で具体化しています。
				<ul style="list-style-type: none"> 1階はガラス張りや開けているのに、2、3階は白壁で圧迫感がある。 切妻のデザインは3階建てだと見えないのではないかな。また、松本のイメージに合うのか分からない。 白漆喰外壁はスプレー落書きされるのでは。デザインを一工夫してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣住民への配慮を十分にしてほしい。住民に愛される施設となってほしい(日照や高さによる影響、来館者からの視線への配慮)。 近隣(大名町通り周辺)住民が使いやすい、出来て良かったと思える施設。 		06	近隣住民への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 展示室、収蔵庫は展示内容や今後の収蔵内容を十分に検討したうえで大きさを計画に反映してきました。基本機能と多様な要望をどのように具体化するかを改めて検討し、2、3階は松本の「たから」を守る堅牢な部分、1階は街とつながり、ヒト・モノ・コトが外からも感じられるオープンな部分として全体を構成する計画としています。
<ul style="list-style-type: none"> 床の素材は、疲れないモノを採用してほしい。 現在の博物館の建築素材を新博物館の臨に再利用したらどうか(二の丸に存在した記憶)。 お年寄りのためにもトイレは入り口から近いなど使いやすいところに設置してほしい。 自噴の水を活かした施設になるといい。例えば屋内まで流れを引き込むなど。 井戸水を使って松本由来の魚を飼おう。 	<ul style="list-style-type: none"> フリースペース(コイル)を設置してほしい。 トラックヤードが西側であることに問題はないか。 				07	建築の外観	<ul style="list-style-type: none"> トイレの位置や床の素材など、使いやすさに配慮し、多様な人びとに使いやすい施設となるよう工夫を重ねます。 井戸水は、地元の方々だけでなく観光客にも親んでもらえる位置に配置し、人びとを博物館に誘引するような仕掛けとして活用します。 今後の大型バス利用者の動線や、周辺の交通規制の状況を検討し、西側にトラックヤードを配置しています。 		
<ul style="list-style-type: none"> 自転車で気軽に立ち寄れる。自転車置き場がたくさんあったり、レンタル自転車のサービスがほしい。 イオンモールができて交通量も増えたため駐車場を充実させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1階から2階へは大階段を設け、コンサートを開いたり、大道芸が演劇したり、座って本を読んだりくつろげる。 				08	必要な諸室・設備			
<ul style="list-style-type: none"> 子どもへのハンズオン展示や外国人、高齢者、身障者対応は大事。 高齢者や体の不自由な方にもやさしい施設(リニアフリー、ユニバーサルデザイン)。 	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫が見えるようにしてほしい。 			<ul style="list-style-type: none"> 収蔵庫を3階、展示室2階にまとめる。 3階常設展示室が狭いと思う(収蔵スペースが広い)。 	09	ユニバーサルデザインバリアフリー			
	<ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザイン(外国人など)で共生文化のある場所。 			<ul style="list-style-type: none"> インバウンドの強化。 					

場所	分類	第1回(2017.10.15) 参加者:一般市民	第2回(2017.11.17) 参加者:一般市民	第3回(2018.1.31) 参加者:博物館ボランティア	意見まとめ	対応	
A	建物全体	<ul style="list-style-type: none"> 学びのスイッチが入る仕掛けがあると良い。 松本を(博物館の中だけでなく)「知りたい」のきっかけづくり⇒知識創造のつぼのようなもの。 市民が計画を立てて実行できるようにする。 市民が演じる。 市民が参加できる体験ものや展示があると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民キュレーターの養成・配置。 「市民論文」など学び好きな松本人も高められる場。 イベントなどで常に地元の人に関われる博物館。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民と博物館のつなぎ役としての「市民学芸員」となる場所。 参加型の市民ギャラリーがあると良い。 市民学芸員のレポート研究発表を博物館で。 	10	市民が参画できる仕掛け	<ul style="list-style-type: none"> 市民の方々と共に活動する仕組みと新しい場の創出により、参画の仕掛けを設けます。現在の博物館ボランティア活動を継続・発展させるとともに、多彩な市民活動ができる「交流学習室」や「市民ギャラリー」を設置しています。
		<ul style="list-style-type: none"> 情報発信の場所。 8000mlしかないので、第二収蔵庫を他に作るのが望ましい。 多大な実物はデジタルアーカイブに、展示は絞って紹介が良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 松本市民が松本を発信できる場所。 さまざまな情報収集の場になるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集の範囲は絞るべきではない。 収蔵品を全て見ることができるデータベースが必要。 収蔵品のデータ化とアウトプットが必要。分類わけも必要。 	11	収蔵品の情報発信・情報収集の場	<ul style="list-style-type: none"> 収蔵品のデータベース化を進めるとともに、さまざまな情報を収集、発信してまいります。
		<ul style="list-style-type: none"> 夜間も営業している施設が良い。 ナイトミュージアム(夜の特徴を活かした企画など、昼見る博物館と夜見る博物館が違うとなお良い)。 	<ul style="list-style-type: none"> 開館時間を長くしてほしい。 ナイトミュージアムやイルミネーションなどなど、昼間だけじゃない魅力づくりもほしい。 夜でも賑わいを創出できる施設。 大名町は夜が暗いので、ナイトミュージアムなどどんどん企画して、明るく安全な、開かれた博物館となしてほしい。 		12	開館時間の延長	<ul style="list-style-type: none"> 実施設計期間に運営方針を検討します。
			<ul style="list-style-type: none"> 企画力のある人を博物館の人材に取り入れてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 魅力的な人材発掘。 	13	人材の発掘	<ul style="list-style-type: none"> 実施設計期間に組織体制を検討します。
B	展示方法	<ul style="list-style-type: none"> 眠っている(収蔵されている)展示物が多いと聞いたので、もっと市民に公開してほしい。 常設展示も変わり映えがしないのでこまめに展示替えをしてほしい(行事や季節ごとに変わるなど)。 常に変化(構築)されていく場所。 		<ul style="list-style-type: none"> 博物館には「実物(ホンモノ)」がある。それを大事にして欲しい。 	14	展示資料の量と展示方法の多様性	<ul style="list-style-type: none"> 「実物資料」を持つ博物館の強みを最大限に活かすことができる、更新しやすいケースやステージなどを設計しています。
		<ul style="list-style-type: none"> 目玉展示やメインオブジェをつくって人を驚かす。 観光客は、ルーブルのモナリザのように「あれ」(目玉)が見たくてくる。それだけ見て、ショップでお買い物をして帰ればそれで満足。それを満たす必要がある。 			15	目玉展示の設定	<ul style="list-style-type: none"> 松本城の展示など、松本を印象づける展示を設計中です。
		<ul style="list-style-type: none"> 五感で感じられる空間や展示がほしい。 展示として、子どもが楽しめる(触るなど)や子供の視点を取り入れたものがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 答えを明示するのではなく、素朴な「問い」が沢山投げかけられるような在り方。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般市民と観光客では、見たいものが違うと思うので、2つの視点を持った展示にしてほしい。 テーマ展示の設定を見直すべき。リピーターが何度も来て深められるような展示が良い。 	16	市民のリピーター利用を促す仕掛け	<ul style="list-style-type: none"> 「気づき」や「考える」展示とし、何度来ても新しい発見に出会える場となるよう進めます。
	<ul style="list-style-type: none"> 城下町と思われやすいが、商都松本の記憶を呼び起こす展示(えびす講、塩市、ほんぼん、青山楼)。時代に合った伝え方で今までの松本を伝えたい、Rediscover 松本! その紹介展示として、街並み再現などがあると良い。 松本で発掘されたものが見ることができる展示がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「商都」松本に着目した取り組みをしてほしい。 松本てまりの常設展示。 全国全世界の学芸員が展示対象(主役)になる。→学芸員全国バトル(サーカスや流しのように学芸員が全国を「渡る」)。 松本学・松本井が知れる。「山あて」って何? 	<ul style="list-style-type: none"> お城の展示スペースを大きくする。 松本城の成り立ちを伝える展示が欲しい。 松本城内では、松本城の歴史年表など松本城解説が少ないので、博物館でしっかり松本城について知ることができる展示が欲しい。(松本城ジオラマを用意し、映像を投影し変遷を紹介するなど) 地元で長く暮らしている人の楽しい話題提供コーナー。 昔は海だったことも含めたもう一つ(城下町とは違う)の松本をテーマに。 松本市偉人伝を紹介する展示が欲しい(松本出身の偉人が沢山いる。その人たちにスポットを当てた展示があると良い)。 「学都」を地元小中学生が学べる博物館に、茨城の飯能市の博物館では小学3年生の団体学習を市民学芸員が担当。 まちが発展する基礎にある重要なテーマである「座繰り」等の産業の実演場。歴史の里でもやっているので、ここでやる必要があるかは検討の余地があるが、いずれにしろ「製糸業」は重要なテーマである。 	17	テーマ展示の充実	<ul style="list-style-type: none"> 現在5つのテーマによる展示を計画中です。この展示計画に軸を置きながら、オープン後の更新を視野に入れてテーマの充実を図っていきます。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員の新しい研究など、映像にも反映・更新できていたら良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 普通に博物館を見ても面白くないが、解説してくれる学芸員ツアーに参加するとすごく面白い。 学芸員に期待。学芸員と身近な接点を作してほしい。→行くたびに新しい発見が得られる。 学芸員の研究の経過や現状が分かる仕掛け。 		18	学芸員の研究に触れる仕掛け	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員が研究成果を発表できる場を館内に設けます。また、学芸員が解説する機会を設けてまいります。 	
<ul style="list-style-type: none"> 市民の協力を得て映像や展示を作ると良い。 			19	市民参加型の展示制作	<ul style="list-style-type: none"> マツもっと展示等で市民参加型の展示制作を検討します。 		

場所	分類	第1回(2017.10.15) 参加者:一般市民	第2回(2017.11.17) 参加者:一般市民	第3回(2018.1.31) 参加者:博物館ボランティア	意見まとめ	対応	
C 1階	利用形態	<ul style="list-style-type: none"> ・階は誰でも自由に立ち寄れる空間、居心地のいい空間にしてほしい(事例として塩尻のえんぱー)。 ・気軽に集まれる、集まる機能が欲しい。 ・気軽さが足りない、気軽さと重厚さのバランスが大事。 ・1階エリアは部屋で区切られているので、壁はなくてほしい、開かれた場所だと入りやすい。 ・1階が区切られすぎているとかんじる。塩尻のえんぱーのように、開放された空間が欲しい。 ・目的なく開放された場があれば人は集まる。その人たちを博物館への関心にどう繋げるかが重要で、それが1階の役割。1階→2階、3階へ、1階→市内へ ・敷居が低く、親しみやすく入りやすい博物館。入る意欲を掻き立てる何かがいい。 ・景色や季節が感じられ、リラックスできる場所。 ・いかに市民を集めるか、市民に興味を持ってもらうかが大事。 ・市民に存在を忘れられない、常に意識する場所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フリーベースは気軽に立ち寄れる場所にしてほしい。 ・気軽に歩いてまた来なくなる博物館。 ・1階にも博物館的要素を出してほしい。→松本城との連携。2階3階の存在を匂わせることが大事。 ・気軽に立ち寄れる、また来なくなる、ワクワク出来るような場所。 ・ふらっとの拠点。 ・松本にはひとりになれる空間が無い、公民館はあるが、浸透していないし行きにくい。 ・何回でも来なくなるしかけが必要。 ・地元の人がふらっと寄れるスペースが少ない。そういう場になればいい。 ・五感で感じられ、入って来なくなる空間。 ・室内公園、まちの縁側のようなところ。 ・「動」と「静」の空間を設ける。 ・市民が使いやすい機能や空間をつくってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・興味の無い人が寄ってみたいと思う雰囲気づくり。 ・気軽に使える場所にしてほしい。 ・既存の井戸端を残し、外も中も開放的なスペースが良いのではないか。 	20	利用の多様性と開放性	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち寄りやすい気軽さや開放的な空間などのご要望をもとに、プランを見直しました。多様な活動に利用しやすい講堂は1階とし、固定的な利用となる子ども向け展示室は2階に配置しています。 ・入口は大名町通り側と土手小路側の両方に設け、入りやすくしました。 ・1階は博物館ならではの活動が開催できる十分な設備や家具を整えつつ、それらが開放的で自由な空間を阻害しないような平面計画としています。行事食、製作体験、昔の遊び体験といった活動が通りからも視認しやすい設えとしています。 ・館室は極力壁や仕切りを無くし、イベントや活動の無い時間帯は自由に居場所を選べる空間を目指しています。
		<ul style="list-style-type: none"> ・階は四角く区切った空間よりも有機的につながるような空間としてほしい。 ・1階について、会議等で使用していないときは開け放して誰でも使える空間にしてほしい。 ・40年50年後を考えて、柔軟性のある場にして欲しい。ただの箱でいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティションをなくし、空間の「雰囲気」でスペースを区別する。 ・自由な空間(内と外区切りが自由)。 ・1階には博物館要素と非博物館要素がどちらもあって、それらがはっきり区別せずに緩やかに混ざり合っている姿が理想。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーブルはあまり置かず、広く自由に使用できる空間にしてはどうか。 ・講堂はいろいろな使い方ができた方がよい。 ・変化して博物館にしてほしい。 	21	博物館らしさの具体化	
		<ul style="list-style-type: none"> ・最近オープンスペースが流行りだが、逆に博物館らしさが失われているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップを開催し、それが外からも見えるようにしてほしい。 ・松本ならではのワークショップが毎日ある。 ・クラフトフェアをやってほしい。 ・松本は音楽の街なので、コンサートの開催も企画してほしい(その際、屋外にピアノ置くといったことはありそうなかった)。 ・「戦国時代」の企画やイベントを開催すればもっと観光客が訪れるのでは。 ・市民活動(写真愛好家)が集まってワークショップできる。 ・その時々でアートとか学芸員さんの論文とかが無数に展示してある空間。それが間仕切りになっているとか。企画に応じて10代がターゲットの時や中高年がターゲットの時など姿が様変わりする。あるときは約りに特化したフライフィッシングミュージアムになってしまう。 ・市民のルーツを語り・聞く場所を設けてほしい。 ・地区文化祭の大きい版を開催。 ・博物館と地元との交流が必要。 ・松本が体験できる博物館(松本てまり、七夕人形の体験など)。 ・常にワークショップや体験ができるようにしてほしい(工芸作家などが実演できるスペースも)。 ・マツモと展示はただ民芸品や名産品を飾るのではなく、中で民芸の職人を育てるような企画と連動して欲しい。 ・若い名もない工芸作家のお披露目の場として、日常的に作家を育てる場とする。 ・伝統文化を次世代に継承する場所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢等に対応したイベントを実施してほしい。 ・Mの会でやっている七夕まつりや雛まつりの来館者体験が、行えるスペースが欲しい。 ・生きた博物館として、実演(座ぐり、みずす細工、松木簾、松本民芸家具、ギターやバイオリンの製作実演)や作家との対話の場を設けたい。 ・伝承すべき文化の気付きの場所。 	22	多彩な活動の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・1階には導入展示空間を配置し、今の松本をさまざまな手法で伝え、3階の常設展示室へ来館者を誘引する仕掛けとなります。またデータベースやマップでまるごと博物館の情報を提供し、まち歩きの出発点となる情報を提供します。
導入展示	<ul style="list-style-type: none"> ・まるごと博物館他4館の連携が大事。無料空間で映像等でPRしたらどうか。 ・基幹博を見学したら、更にまるごと博物館4館に行きたくなるようなものがほしい。 ・まるごと博物館の情報やまちの観光情報などを発信し、まちのなかへ誘うような情報発信拠点になってほしい。 ・街を取り込んだ博物館(博物館中だけがよいのではなく、松本市内に巡ってもらえるようなしかり)。 ・市街から外へ外へ、誘導する仕組みがあればよい。 ・松本は街歩きをして楽しむ観光客が多いので、情報案内は外にあるほうが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松本の回遊性につながる場所。 ・街との一体感。各エリアにつながるしてほしい。 ・博物館の外、他館(まるごと博物館)や町中(古道)へも行ってみたいくなるきっかけを与えてくれる場。 ・「問い」だけある展示などで、「まるごと博物館」へ導くきっかけとなるしかり。 ・待ち合わせの場所になると良い(松本情報が手に入る)。 ・松本の観光拠点として観光情報も取り入れてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松本市内を見て回るコースの紹介や市民も意外と知らない松本のことなど「基幹博物館」としての役割を大事にしてほしい。 ・まるごと博物館の今を伝える場が欲しい。例えば馬場家住宅の映像・検査装置で紹介するもの等。 ・37区と連携して、各地域の紹介をしてほしい。 ・分館との有機的な関係づくりや、分館に行きたくなる動機づけを実演展示や映像による紹介や行き方、所要時間の紹介により行いたい。 	23	観光客の誘客と市内誘導	<ul style="list-style-type: none"> ・まるごと博物館や市内回遊コース等のまち歩き情報を1階で提供します。イトインコーナーでお茶をしながらタブレットを見る、通りを歩きながらマツモとを見るなど、気軽にアクセスできるものを設けます。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・遠くから見て興味をひくもの→光や映像、音など五感で感じられるもの。 ・まちあるきをしている人が映像で展示の中身を知れる ・映写室(松本の紹介映像を流す場所、城と山のリアルタイムな映像も)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・松本の四季を伝える映像がほしい(夏に来て冬のよさがわかるような展示)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・階に松本展示として、お城シアターなどがあたらどうか。 	24	訴求力のある展示	<ul style="list-style-type: none"> ・通りから多くの人を引き込むために、マツモと展示や、松本の風土や歴史の特徴を伝える大型ビジョンを設けます。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・掘削すると遺構や遺物が出てくるのだから、それをそのまま見せる場所があってもいい(歴史を感じられる)。 ・現在の史跡調査結果を床下にそのまま遺構展示したらどうか。 ・例えば、市内の石畳など、道のいろいろな素材を集めて、足で松本市を体験する、松本プ子旅行ができるというのはいかがでしょうか。 ・階はアピールする場所(最新技術をつかう→ロボットに案内)。 ・現代アートのような目をひくもの。 ・無料空間で松本の歴史案内ができる。有料空間ではなく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館との関連で1階に「発掘エリア」をつくってはどうか。 ・お祭りの山車が入ったらいい。 ・1階が消極的に感じる。1階から博物館要素を打ち出してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIを活用したコンシェルジュ機能。 ・講堂の北側壁全面にアルプスの風景画を展示。 	25	カフェ等イトインコーナーの設置	<ul style="list-style-type: none"> ・設置する方向で検討中です。 	
子ども向け展示	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものスペースができると中学生や高校生になって来れる場所になるのでよい。 ・未就学児が遊べる場所。 ・子どもの居場所になると良い。 ・学校帰りに気軽に立ち寄れる安心、安全な場所。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども展示室は階が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズコーナーで小さな子が遊べて、お母さんも学べる場。 	26	子どもに着目した展示・滞留スペースの確保	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども向けの体験スペース「子ども向け展示室」を設けます。子どもと保護者の交流を促す場とすることを目指しています。 ・終了時間が異なる可能性があるため、「子ども向け展示室」は2階としました。 ・「交流学習室」などを開放し、学生たちの居場所として使ってもらうことを計画しています。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・親子の博物館は階にあった方がよい。 						

場所	分類	第1回(2017.10.15) 参加者:一般市民	第2回(2017.11.17) 参加者:一般市民	第3回(2018.1.31) 参加者:博物館ボランティア	意見まとめ	対応	
D 1階市民交流室	利用イメージ	・誰でも入れる懇談室にする。ほんほんの時など、お年寄りが昔の祭りの様子を話してくれたりする。 ・友の会は何をやっている?とよく言われるが、いろいろなテーマで話している。いわば「むだつぶなし」なのだが、それが楽しい。それを誰でも見える場でやる。	・時代に詳しい人がいる場。 ・待合せをしながら他館の情報や時代ごとに詳しい「名物案内人」「コンシェルジュ」から松本のディープな情報を得られる場。	・3つのボランティア団体と、市民や観光客、外国人などどんな人も入りやすい場所にして、いつでもお茶を飲みながら話のできる場所にして、松本市のコンシェルジュとなりたい。	27	利用者への開放性	<ul style="list-style-type: none"> ・市民交流室は、交流のための拠点と位置づけしなおし、各団体のためのロッカーや資料保管スペースとしました。活動については、1階の諸室(会議室など)もしくは共用スペースのテーブル・椅子を利用してもらう計画です。 ・占有するスペースは部屋として設けず、むしろ一般の利用者との交流を重視して、1階の様々なスペースで活動する事を想定したプランとしました。
				・3つのボランティア団体が集まり問題点を共有したり、学芸員とともに博物館や松本について話し合う場としたい。 ・3つのボランティア団体以外の団体との交流の場としたい。	28	団体による利用性	
				・3つのボランティア団体の発表の場としたい。 ・3つのボランティア団体の学習の場としたい。 ・子どもたちをジュニア会員にするためのイベント。 ・分館の出張展示をする。 ・3つのボランティア団体同士の交流会、市民との交流会を設ける。 ・プロジェクターで松本の展示物を紹介したい。			
				・各団体の部屋もほしい。			
				・交流室は無くても良いのではない? ・市民交流室は、会議室的なスペースなら、特定のグループが占有するだけであり、必要ない。			
				・これまでやってきた行事食の提供は継続してほしい。		29	
E その他		・松本は一方通行の道路が多いため、博物館までのアクセス方法を分かりやすく発信してほしい。 ・場所が移転するため、博物館がどこにあるか分かるようなサインに整備してほしい。	・駅に博物館案内サインがあり、博物館に来る道にも誘導するアイテムがあり、博物館ファサードにも博物館案内サインがある。 ・工芸品の制作風景などが駅のモニターで発信されることで博物館への誘導に繋げる。		30	屋外や道路での誘導	・「市民交流室」近くに簡単な調理器具を設けました。 ・博物館施設の設計に合わせ、周辺からの誘導計画も検討してまいります。
			・1階は建物だけでなく、建物までの道も考慮して計画してほしい。				
			・郊外の人を中心市街地に来ない、イオンからお客さんを引っ張ってくる。				

第1部実施風景



<第2部 新しい博物館でやりたいことを考え共有するワークショップ>

グループワーク実施状況



個人ワーク実施状況

